

湯田小学校からの報告

活動団体名： 湯田小学校理科クラブ 「水生生物調査隊」

活動人数： 23人（教員2名）

取組時間：クラブの時間

調査内容 1回目：5月30日（月） 内保町親水公園内用水路 晴れ 2回目：6月13日（月） 尊野町飲料水源池 晴れ
3回目：7月11日（月） 湯田小学校にて尊野町水源池近くの用水路の生物観察 晴れ

本校の調査隊は、4年生から6年生の理科クラブの児童で構成されており、月曜日の6校時がクラブの時間となっています。活動内容は、生物だけにかかわらず、様々な理科学的な実験に取り組んでいます。

活動場所は、湯田小学校から近い内保町・尊野町の2つの水路とし、各水路一回ずつの活動としました。時間に限りがあるので、事前に活動の目的である「川に生きる生き物の命を無駄にしないために有意義な調査にしよう。」ということや、調査を行う上での安全な服装・方法等を説明した上で行き、支給された下敷きを活用して採取した生き物を観察しました。現地での調査活動であるため、ルーペを用いた観察が中心で、子どもたちは初めて見る水生生物に興味を持ち、どの子も一生懸命に調査する姿が見られました。時間が短かったこともあり、あまり採取することはできずに終わってしまい、「もっとしたかった。」という声が挙がるほどでし



た。身近な水路で行ったこの活動が、地域の水環境や生息している生き物に興味・関心をもつ良い機会となりました。

調査員の感想

水生生物調査隊で学んだことは、地域の水質や川にいる生き物についてです。同じ川でも上流や下流によって住んでいる生き物は違うこと、水の汚さによって住んでいる生き物の種類に違いがあったこと、近くの川や池にいる生物を調べることで、どんな水なのか分かることです。

捕まえた生き物たち

指標生物としては、ヘビトンボ類、サワガニ、ウズムシ類、シジミ類、カワニナなど昨年度までと同じような生き物が採取できた。その他今年度採取できたものとして、ヤゴ類、カワムツの稚魚、ニッポンヨコエビなども見られた。水路の様子は側面は石積、底が砂利、水草も生えているといった自然に近い様子がうかがえた。

調査のまとめ

ルーペや顕微鏡などで採取した生き物を細かいところまで観察する姿が見られました。短い時間の中でも、実際に自然に触れることが子どもたちの調べる意欲につながることを実感しました。子どもたちは生き物に興味・関心がないのではなく、生き物に興味・関心をもつ機会が少なくなっているのではないかと思いました。自然に触れる機会を仕組むことで、自然について考えたり、自然を大切にしたいという気持ちをもったりすることができると思うことができると強く感じました。今回、前回の調査結果と大きく変化したことはなく、地域全体での水質を守り、汚さない取り組みや努力の成果と考えます。身近な地域での調査がきっかけとなり、環境への意識が深まっていくことを期待したいです。



活動の様子

【5月30日 内保町親水公園内用水路】



【5月30日 採取 カワニナ】



【6月13日 尊野町水源池付近】



【6月13日 採取 サワガニ】



【6月13日 採取 ヘビトンボ類】



【7月11日 湯田小での観察会】



【7月11日 ニッポンヨコエビ】



【7月11日 トビケラの仲間】

